

雷鳴抄

民俗学者
柳田國男
の名著に
「先祖の話」

がある。先祖の霊はそこかしこにいて子孫を見守っている、と日本人は考えているとする▼テレビの人気アニメ「サザエさん」に、波平が悩んでいると武士の姿をした先祖の霊が現れ、波平を叱咤激励するシーンがあった。

あれもそういうことなのだろう▼宇都宮市の石材店経営谷田部修さん(四〇)ら石材業界の有志が「墓」の勉強会を重ねるうち、「先祖の話」にたどり着いた。日本人の精神文化を多くのの人々に知ってほしいと考えた。が、本は絶版だった▼著作権を継承する著者の長男夫人富美子さん(八九)が再

版の願いを聞き届けてくれた。縁なのだろう。富美子さんの両親は本県出身だった。全国から同業の八十八社が資金を拠出し、前月末、「新訂先祖の話」(石文社)が出版された▼谷田部さんは県内の図書館に寄贈したいという。確かに、心のすさんだ時代にこそ心の話はふさわしい。執筆者の意にもかなうに違いない▼二十日は彼岸の入り。厳密には彼岸会というこの風習は、祖霊信仰と仏教が重なった日本独特のものという。先祖を供養しつつ、それぞれがわがルーツに思いをめぐらせた。ちなみに「先祖の話」は、柳田家初代は烏山藩士柳田与兵衛とされる、と記している。